

平成 2 6 年度
運営諮問会議報告書

(ホームページ公開用抜粋版)

平成 2 7 年 6 月



熊本高等専門学校
National Institute of Technology, Kumamoto College

ま え が き

熊本高専では、高度化再編にあたり、学校の理念を定めました。「専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成及び科学技術による地域社会への貢献を使命とする」というものであります。

この理念に沿って、カリキュラムが編成され、教職員一同一丸となって多岐にわたる業務に邁進しております。

国際的に活躍できるグローバル人材が備えるべき能力については、文部科学省をはじめとする政府機関や財界等の民間団体の各種会議、あるいはマスコミなどで議論がなされています。共通的な要素として、語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、異文化に対する理解、などが挙げられており、さらにこれからの社会に共通して求められる資質として、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、異質な集団をまとめるリーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシーなども指摘されています。

従来、高専の卒業生に対しては、経済界を中心におおむね高い評価をいただいているところですが、大学卒あるいは大学院卒と比較したとき、コミュニケーション力とくに英語力の不足が指摘されることもありました。中学卒業後、5年間で大学工学部卒業と同等の専門技術を身に付けることを目指したカリキュラムでは、どうしても専門技術科目数が多く、時間割に組み込める英語科目の時間数は、普通高校から大学に進学した場合と比べ、大幅に少なくなってしまうます。実践的・創造的な技術者として、他の資質・能力は十分だとしても、英語力の不足が卒業生の可能性を狭めることがあってはならず、この課題を克服するために種々の努力をしております。

そこで、今回の運営諮問会議では、グローバル人材育成に向けた活動の一環である英語教育について、本校の取り組みをご報告申し上げ、ご指導を頂戴することといたしました。

熊本高専として第5回目の開催となる本会議は、熊本キャンパスで開催することとなりましたが、委員の皆様にはお忙しい中ご出席賜り、長時間熱心にご審議頂きました。心よりお礼申し上げます。地域の各界のリーダーであられる委員の皆様から頂きましたご指摘、ご助言は、今後、本校の運営に活かして参る所存です。

委員の皆様のご理解とご支援に厚く感謝申し上げます。

平成27年3月

熊本高等専門学校長 長谷川 勉

目 次

まえがき

1. 熊本高等専門学校運営諮問会議委員名簿	1
2. 熊本高等専門学校運営諮問会議規則	2
3. 日程等	4
4. 出席者名簿	5
5. 平成25年度の提言等に対する改善に向けた対応	7
6. 平成26年度運営諮問会議でのご意見等の要旨	11
7. 平成26年度運営諮問会議における提言事項	15
8. 話題提供資料	
テーマ「熊本高専における英語教育と国際交流への取り組み」	16

1. 熊本高等専門学校運営諮問会議委員名簿

任期：平成25年4月1日から平成27年3月31日まで
(※は、平成26年4月1日から平成28年3月31日まで)

会長

村 山 伸 樹 国立大学法人熊本大学工学部長

委員

足 立 國 功	熊本県工業連合会会長
荒 木 義 行	合志市長
亀 田 英 雄	熊本高等専門学校八代キャンパス同窓会長
櫻 井 一 郎	櫻井精技株式会社代表取締役社長
中 村 博 生	八代市長
平 田 雄一郎	平田機工株式会社代表取締役社長
※ 細 野 英 彦	熊本県中学校校長会会長
松 下 純一郎	熊本日新聞社取締役
松 村 民 雄	熊本高等専門学校熊本キャンパス同窓会長
※ 宮 尾 千加子	熊本県商工観光労働部商工労働局長

(委員氏名は五十音順で記載)

2. 熊本高等専門学校運営諮問会議規則

平成23年5月17日制定

(趣旨)

第1条 この規則は、熊本高等専門学校内部組織規則第9条第2項の規定に基づき、熊本高等専門学校運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 諮問会議は、熊本高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究活動等の状況について評価及び助言等の提言を行い、本校での自己点検・評価に関する活動を支援することを目的とする。

(任務)

第3条 諮問会議は、次に掲げる事項について、校長の諮問に応じて評価等を実施するものとする。

- (1) 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
- (2) 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
- (3) その他本校の運営に関する事項

(組織)

第4条 諮問会議は、本校の職員以外の者で次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 大学等高等教育機関の関係者
- (2) 本校の所在する地方自治体の関係者
- (3) 本校の所在する地域の教育関係者
- (4) 本校の所在する産業・経済界の関係者
- (5) 報道機関の有識者
- (6) 本校を卒業又は修了した者
- (7) その他高等専門学校に関して広くかつ高い識見を有する者

(委嘱)

第5条 委員は、校長が委嘱する。

(任期)

第6条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第7条 諮問会議に、会長を置き、校長が指名する者をもって充てる。

2 会長は、諮問会議を招集し、その議長となる。

3 会長に事故があるときは、校長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第8条 会長が必要と認める場合は、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(開催)

第9条 諮問会議の開催は、原則として年1回とし、開催場所は熊本キャンパスと八代キャンパスにおいて交互に開催する。

(事務)

第10条 諮問会議の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成23年5月17日から施行する。
- 2 この規則施行後最初に委嘱される第4条の委員の任期は、第6条の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

3. 日 程 等

日 時 : 平成26年11月25日(火)

会 場 : 熊本高等専門学校 熊本キャンパス (ICTホール)

次 第

13:30～14:00 受付

14:00～14:10 開会(校長挨拶)、日程説明、出席者の紹介等

14:10～14:20 前年度提言等に対する改善に向けた対応について

14:20～15:50 話題提供・協議

【テーマ】「熊本高専における英語教育と国際交流
への取り組み」

【説明者】下塩義文(熊本キャンパス副校長)

15:50～16:00 その他意見交換等

16:00 閉会(校長謝辞)

4. 出席者名簿

【出席委員】

会長（議長）

村 山 伸 樹 （国立大学法人熊本大学工学部長）

委員

足 立 國 功 （熊本県工業連合会会長）

荒 木 義 行 （合志市長）

亀 田 英 雄 （熊本高等専門学校八代キャンパス同窓会長）

中 村 博 生 （八代市長）

平 田 雄一郎 （平田機工株式会社代表取締役社長）

細 野 英 彦 （熊本県中学校校長会会長）

松 下 純一郎 （熊本日日新聞社取締役）

松 村 民 雄 （熊本高等専門学校熊本キャンパス同窓会長）

宮 尾 千加子 （熊本県商工観光労働部商工労働局長）

（委員氏名は五十音順で記載）

【学校関係者】

長谷川 勉 （校長）

下 塩 義 文 （副校長・熊本）

齊 藤 郁 雄 （副校長・八代）

古 江 研 也 （教務主事・熊本）

渕 田 邦 彦 （教務主事・八代）

大 石 信 弘 （学生主事・熊本）

古 嶋 薫 （学生主事・八代）

光 永 武 志 （寮務主事・熊本）

小 林 幸 人 （寮務主事・八代）

永 田 正 伸 （総務主事・熊本）

小 田 明 範 （総務主事・八代）

米 沢 徹 也 （ICT活用学習支援センター長）

小 松 一 男 （ICT活用学習支援センター副センター長）

田 中 禎 一 （地域イノベーションセンター副センター長）

小田川 裕 之 （PBL・総合教育センター長）

上土井 幸 喜 （PBL・総合教育センター副センター長）

八 田 茂 樹 （共通教科長・熊本）

開 豊 （共通教科長・八代）

葉山清輝	(情報通信エレクトロニクス工学科長)
小山善文	(人間情報システム工学科長)
田浦昌純	(生物化学システム工学科長)
木場信一郎	(生産システム工学専攻長／専攻科長)
三好正純	(電子情報システム工学専攻長)
種村公平	(自己点検評価委員会委員長)
伊藤利明	(自己点検評価委員会副委員長)
縄田俊則	(教務主事補・熊本)
高倉健一郎	(教務主事補・熊本)
永田和生	(教務主事補・熊本)
下田貞幸	(教務主事補・八代)
村山浩一	(教務主事補・八代)
楠元実子	(英語担当教員・熊本)
高木朝子	(英語担当教員・熊本)
松尾かな子	(英語担当教員・熊本)
宇ノ木寛文	(英語担当教員・八代)
米澤宏	(事務部長)
小枝義則	(総務課長)
三原和宏	(管理課長)
高嶋重俊	(学生課長)
前田俊哉	(学務課長)

5. 平成25年度の提言等に対する改善に向けた対応について

※資料の概要説明

次頁に示します「平成25年度運営諮問会議での提言等に対する改善に向けた対応」は、前回の運営諮問会議（平成25年11月12日開催）において、本校の教育研究活動等に対する各委員からの貴重なご意見等を整理、取りまとめられた上、運営諮問会議会長名によりいただいた提言等事項を、本校において改善に向けた対応の方策等について検討した結果です。

この改善に向けた対応は、両キャンパスの運営会議に報告し、学校全体で取り組む課題として共通認識され、今後も引き続き改善に取り組んでいくことにしています。

改善に向けた対応は、以下に示すとおり、既に改善が実施されているものから改善には今後十分な検討を要するものまで、4つの対応区分で分類しています。

- | | |
|------|---------------------------|
| 対応区分 | A＝改善に向けた対応を、実施しているもの |
| | B＝改善に向けた対応を、直ちに行う必要があるもの |
| | C＝改善に向けた対応を、将来的に行う必要があるもの |
| | D＝改善に向けた対応には、十分な検討が必要なもの |

今回受けた3項目の提言事項は、それぞれを以下のように整理しています。

【提言等事項】

運営諮問会議会長名により受けた提言等事項

【提言に関するご意見等抜粋】

提言等事項に該当する委員の方からのご意見等の部分を抜粋したものです。

【対応区分】

提言等の現状確認を行い、対応の進展状況を、上記の4つの区分で分類したものです。

【改善に向けた対応】

提言等に対する具体的な改善方策を取りまとめたものです。

平成25年度運営諮問会議での提言等に対する改善に向けた対応

対応区分： A＝改善に向けた対応を、実施しているもの
B＝改善に向けた対応を、直ちに行う必要があるもの
C＝改善に向けた対応を、将来的に行う必要があるもの
D＝改善に向けた対応には、十分な検討が必要なもの

提言1

【提言等事項】

「人間力を養うアクションプラン」の共有化を図り、実行スケジュール等の明確化及び数値的な目標を設定してもらいたい。

【提言に関するご意見等抜粋】

- (1) アクションプランの主体的対応を含め、ロードマップを作成すること。
- (2) 教員だけでなく、学生にも共有化を図ること。
- (3) 数値的な目標には資格取得なども設定し、達成度を評価することで次への改善につなげていくこと。

【対応区分】

A

【提言等に対する改善に向けた対応】

教育改善プロジェクトWGでは、「知識や技術の定着」、「人間力の育成」、「国際性・創造性の向上」など、本校教育全般のさらなる改善をテーマに、具体的な方策を検討してきましたが、「人間力の育成」に関しては、以下の取り組みを行っています。

1. 熊本キャンパスでは、H25年度から「新入生への学習の手引き」を発行し初年度教育を開始していますが、後期の当初には1週間の特別時間割を設けて、学年ごとに企業のトップや外国人の講師を招いての研修会を実施するなどの活動を展開しています。
2. 八代キャンパスでは、昨年度の運営諮問会議のご意見を受け、プロセスアプローチによる検討を通して、今夏にアクションプラン案を策定しました。今後は、「教育改善アクションプラン推進委員会」を立ち上げ、各取り組みのロードマップを明確にしながら、「アクティブラーニングの推進」、「キャリアポートフォリオシステムの導入」、「ジェネリックスキルの評価テストの導入」、「資格試験へのチャレンジを促進するためのマイスター制度の導入」など、様々な取り組みを順次実施していく予定です。
3. 学校全体としては、本校OBや地域人材の活用を図るため、本年度から「客員教授制度」を導入しました。また、学生の主体的学び・主体的活動を促進するため、来年度から90分授業に切り替える方向で検討中です。さらに各キャンパスでの取り組みの成果を共有しながら、効果の高いものから、学校全体として取り入れていく予定です。

提言 2

【提言等事項】

熊本高専が養成する人材像に「経営者」という視点を取り入れ、人材育成に取り組んでもらいたい。

【提言に関するご意見等抜粋】

- (1) 「納期(期限)」という要素を意図的に教育に取り込むこと。
- (2) 読書など技術的なものでない教育も思考力を高めるのに有用である。
- (3) 発明や意匠登録など特許関係の教育も大事である。

【対応区分】

A

【提言等に対する改善に向けた対応】

人材像として「経営者」という視点を考慮して、以下のような取り組みを行っています。

1. 納期(期限)の重要性を理解させるために、実験レポートでは提出期限の厳守を義務付けています。特に5年次の卒業研究や専攻科の特別研究では、設定された論文発表日までに研究をまとめられるように無理のない実施計画の作成と実施結果の報連相によるPDCAを義務付け、納期管理の考え方を理解させるようにしています。
2. 読書を通じて広い思考力を養わせるために、1年次より始業前に読書指導を行ったり、読書感想文の課題を与えてコンクールに応募させたりして、読書の習慣を身につけさせるように指導しています。
3. 発明や意匠登録などの特許関係の教育を充実させるため、本科5年次では弁理士による特許出願書類の作成指導を、専攻科では「技術開発と知的財産権」「科学技術者と法」などの科目を通じて、製造業と知的財産権についての教育を実施しています。

提言 3

【提言等事項】

英語力の向上及び多様性を理解する教育に取り組んでもらいたい。

【提言に関するご意見等抜粋】

- (1) 日常的に英語を身に付けさせる教育を行うこと。
- (2) 大学や高校との交流、留学生等との交流を通じて、多様性を理解することが自律性を養うことになる。
- (3) 高校では英語による授業も行われており、高校教育と格差が生じないように英語教育に取り組む必要がある。

【対応区分】

A

【提言等に対する改善に向けた対応】

本校では英語力向上と多様性を理解させるため、研修旅行の企画、TOEIC受験の推進などの他、以下のようなさまざまな取り組みを行っています。

1. 日常的に英語を身につけさせるため、放課後を利用した英会話教室、朝・昼休みでのラジオ英会話放送を通じて日常英語に触れる機会を提供しています。
また、技術英語や専門授業の一部を外国人講師が行っています。
2. シンガポール、台湾などへの研修旅行の機会を提供したり、3年次には「国際・異文化理解」を受講させています。
また、3年次より国費留学生を受け入れ、東南アジアや中国からの短期留学生も毎年受け入れて交流しています。
一方、休学することなく3ヶ月以下の短期留学ができるような規則も制定しています。
3. 英語科目については、すでに英語による授業を実施していますが、今後さらに英語による授業のレベルアップを図っていくことにしています。

英語教育と多様性理解に向けた今後の取り組みとして、以下の事項に重点的に取り組み、それぞれの具体的な実施要領については、ロードマップを平成26年度内に作成し実践していくことを考えています。

1. 英語力の達成目標を学年別に定め、TOEICや英検受検を義務付ける。
2. すべての学生が外国人や留学生と交流できる機会を可能な限り多く提供していく。
3. 英語論文などの読解力、語彙力を高めるため、英文テキストの採用や英語による授業を取り入れていく。

6. 平成26年度運営諮問会議でのご意見等の要旨

○今回のテーマ「熊本高専における英語教育と国際交流への取り組み」に対する委員のご意見

【委員のご意見】

学生が自分で進んで勉強するよう、意欲をかきたてるようなやり方を考えて実行すればいいのではないのでしょうか。

学生が意欲的に取り組むための方策について、何か考えておられることはありますか。

(熊本高専の回答：下塩副校長)

一つは督励措置としての単位の認定ですが、他にも、少し強制力を強めて、英検のCATというeラーニングによる受講は、担当教員が受講状況を確認しています。また、海外研修に派遣する学生の選抜方法として、英単語テストの結果を判断材料にしたり、海外研修の経費的な補助を受けるには、TOEICの点数の条件などがありますので、学生が自ら英語の勉強をする動機づけになっていると思われます。

【委員のご意見】

負荷をかけてやれといっても、興味がないとなかなかできないと思います。学生が興味がある事は千差万別なので、自分に合うものを見つけるしかないと思います。お金もない、時間もないというのであれば、例えばスマートフォンには英語が勉強できるフリーのアプリケーションがありますので、子供たちが興味のあるようなフリーアプリケーションを学校から提示して、自分に合うものを選んで勉強すれば、短期間で英語を習得することができるのではないのでしょうか。

【委員のご意見】

義務教育における英語教育と高専でやられている英語教育では、子供たちにとってはギャップを感じるようなところがあるように思います。

安倍政権は教育再生の提言の中に、義務教育における英語教育の見直しを提言しているところですが、提言では、小学校の3、4年生から英語教育を開始して、小学校の高学年で教科化し、中学校では授業を英語により行うという方針です。そのためには小学校から興味・関心を持てるような取り組みを基本としてやらないと、最初から英語嫌いの子供を作ってしまう、そのまま高等教育に進んでしまうのではないかと心配しています。義務教育における英語教育についても考える必要があると思います。

【委員のご意見】

記憶の中で仕事をするのではなく、自分で発想して相手に応じて臨機応変に対応することができる人材の育成というところは、高専に期待しています。

高専が自由な発想で、求められることに応じて企画して仕事をするような人材を育成していくことは、どんどん伸ばしてもらいたいと思いますし、そういう中で、海外との交流を進めることで、自ずと英語の必要性は感じていくのではないのでしょうか。

【委員のご意見】

TOEICが800点でも英語が使えない人もいれば、500点でも十分に使える人がいるように思います。その差は何かというと、文章ばかりで勉強した人は使えないが、実際に海外で英語を使う環境で学んだ人は使えるのではないかと思います。

【委員のご意見】

グローバル化が進み、外国人の受け入れが増え、日本人も海外に進出していく機会が増えていくことから、まずやらないといけないのはグローバル化に対応できる人材の育成となります。これまで高専が取り組んできた教育は、これはこれでいいと思います。しかし、今後、英語をどう扱っていくのかという点では、モチベーションとか興味のあるものにしないといけないので、そのように仕向けるにはどうすればいいのか、ということだと思います。

(熊本高専の回答：下塩副校長)

10月から新たに始めた取り組みとして、「多文化交流室」を設置しました。これは、学内で疑似留学体験ができるというもので、あまり費用をかけずに学生が英語に興味を持てるように始めた取り組みです。

【委員のご意見】

英語はつきつめればコミュニケーション力あるいは人間力だと思います。

現代は多様性を受け入れないと生きていけない時代ですので、ダイバーシティの考え方で、国籍・年齢・障がいなどの違いを、当たり前を受け入れることができる人材でないといけない、そのためのツールが英語であると思います。

また、将来的に学生を含め女性が増えれば、学校が活性化してお互いが成長でき、価値観がぶつかり合うことで、世界の中で生きていける人材が育つと思います。

【委員のご意見】

私の会社では、英語でも萎縮しないように、ハロウィンやクリスマスの行事で英語の寸劇をやったりして、文化的な要素を取り入れて英語になじませることをやっています。また、中国の方からは餃子の作り方を教えてもらったりしています。このようにカリキュラムやテキストだけではなく、人間的な付き合いの中で英語を学んでもいいかなと思います。例えば、「閃きイノベーション」を英語版でやってみてはどうでしょうか。学生には、外国で活躍できるような即戦力の人材になってもらいたいので、閃きイノベーションの中で、海外の企業の方と英語でディスカッションすることもいいことだと思います。

(熊本高専の回答：長谷川校長)

ダイバーシティということについては、学生が留学生等と接触することでできることだと思いますので、副校長の説明にありましたように、学生に接触を持たせるということは、かなり強くやっているところですので、ご指摘に沿う取り組みもいくつかございます。また、学生に興味を持たせるということも重要だと思いますので、学生が興味を持てるものを探してあげたいと思います。

いかにして自分が好きな分野で英語に興味を持たせるかが大事ですので、まずは接触

を深めさせ、遊びの要素も取り入れ、海外の学生と一緒にモノ作りを行うことなどは現在もやっていますが、さらに広げていって、よい方向に進むよう努力していきたいと思います。

【委員のご意見】

メンタルの面、つまり「でべそ」な人を育てないといけないと感じます。自由な校風は守っていただきつつ、引っ込み思案で英語が嫌いにならないように指導する。英語を伸ばすために、引っ込み思案にならずに積極的に出て行けるよう後押しをしてもらいたいと思います。

【委員のご意見】

高専ではきっかけをいろいろ作ろうとしていますが、これは非常にいいことだと思います。教科書の勉強だけでなく、実際に外国の方と友達になってコミュニケーションをとることは、とても勉強になると思います。また、NHKのラジオ英会話を聴く取り組みも、毎日の積み重ねが大事ですので、とてもいいことだと思います。

【委員のご意見】

留学することにどのような支援を行っているかということについてですが、どのようなところに留学して、それをどうやって単位などに反映させ評価しているか、というところをお聞きしたいと思います。

(熊本高専の回答：長谷川校長)

現在、シンガポールやフィンランドの大学に留学する学生が多いですが、3カ月を超える長期の留学になると、単位の関係で留年することになります。そこで、インターンシップを含め長期の留学ができるよう、6か月間留学しても留年しないで済むような仕組みを作ろうと議論を始めました。

(熊本高専の回答：下塩副校長)

現在、専攻科の1年生について、半年間留学しても休学しなくてもいいような制度を、九州沖縄地区の9高専全体で検討しているところです。

【委員のご意見】

留学において両極端の場合があり、留学先で日本人ばかりが集まってしまい、何年留学しても語学が上達しない場合と、積極的に現地で中に入っていき短期間で語学を習得する場合があります。できたら、英語を学べる環境を整えてあげてほしいと思います。

(熊本高専の回答：長谷川校長)

基本的に本校の学生は一人で留学していますので、日本人だけが集まるということはないと思います。現地の人たちと交流して語学を学ぶという者がほとんどです。

【委員のご意見】

グローバル化はローカル化だとも言われます。世界で通用するには、まず地元のことを知って発信することで、他国の人との信頼ができると言われていますが、そのあり方も高専ではきちんとしておられるだろうと思っています。

【委員のご意見】

グローバル化に対応した英語教育が課題ということですが、教育の現場、ビジネスの現場、それぞれの現場で求めるものに差が生じているのだろうと思います。

英語が今後ますます重要になってくるのは明らかですが、高専ではいろいろな取り組みをされていて、学生のやる気を起こすこと、海外での見聞を広めることは、とてもいいことだと思っています。若い世代が海外で刺激を受け、英語を頑張ろうと思うような環境を作ることが大事であり、そういう環境作りを支援していきたいと思っています。

【委員のご意見】

説明資料の最後に、「今後の課題」ということで4つの力の伸長の矢印の絵がありますが、ここに「ワールドワイドな発想力」というのを入れてほしいと思います。

グローバル人材の育成には、ワールドワイドな発想力がないといけませんので、そのあたりも考慮していただければと思います。

7. 平成26年度運営諮問会議における提言事項

平成26年度熊本高等専門学校運営諮問会議は、会議での意見等に基づき、以下のとおり提言します。

【提言1】

英語教育について、学生が興味や意欲を持って学習に取り組める仕組みを考えてもらいたい。

(本提言に関する運営諮問会議での意見抜粋)

- もっと学生の意欲をかきたてるようなやり方を考えて、実行すればいいのではないのでしょうか。
- 負荷をかけてやらせようとしても、なかなか興味がないとできないのではないのでしょうか。
- 興味があることは千差万別なので、自分に合うものを選んで勉強するしかないと思います。
- モチベーションや興味のあるものにしないといけないので、そのように仕向ける方法はどうしたらいいのかということだと思います。
- 海外で刺激を受け、英語を頑張ろうと思うような環境を作ることが大事だと思います。

【提言2】

グローバル化に対応した人間力やワールドワイドな発想力を有する学生を育成するとともに、地元熊本の歴史や文化などを理解し発信できる、社会学的な教育にも取り組んでももらいたい。

(本提言に関する運営諮問会議での意見抜粋)

- 英語はつきつめれば、コミュニケーション力あるいは人間力だと思います。
- カリキュラムやテキストだけではなく、人間的な付き合いの中で語学を学んでもいいのではないかと思います。
- グローバル人材の育成には、ワールドワイドな発想力がなくてはいけないので、そのあたりを考慮していただきたいと思います。
- 引込み思案で英語嫌いにならないよう、積極的に出て行けるように後押しをしてもらいたいと思います。
- 実際に外国人の方と友達になりコミュニケーションをとることは、とても勉強になると思います。
- グローバル化はローカル化だとも言われます。世界に通用するには、まず地元のことを知って発信することで、他国の人との信頼ができると思います。



英語教育と国際交流への取り組み

平成26年度運営諮問会議

平成26年11月25日

熊本高専熊本キャンパス



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

1



I. 育成目標と教育プログラム



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

2

教育理念・教育目標に掲げる育成目標

1. 教育理念

本校は、専門分野の知識と技術を有し、技術者としての**人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成**及び科学技術による地域社会への貢献を使命とする。

2. 教育目標(育成する人間像)

- (1) **日本語及び英語のコミュニケーション能力**を有する技術者
- (2) ICTに関する基本的技術および工学への応用技術を身に付けた技術者
- (3) 各分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力を持った技術者
- (4) 知徳体の調和した**人間性および社会性・協調性**を身に付けた技術者
- (5) **広い視野**と技術のあり方に対する倫理観を身に付けた技術者
- (6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる技術者



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

3

国際化教育プログラム

1年生～3年生

- 外国人との交流
- 国内外での研修
- 異文化理解授業

基礎学力の養成
異文化への関心
職業意識の形成

4年生～5年生・専攻科生

- 外国人講師による英語での授業
- 海外研修旅行
- 留学

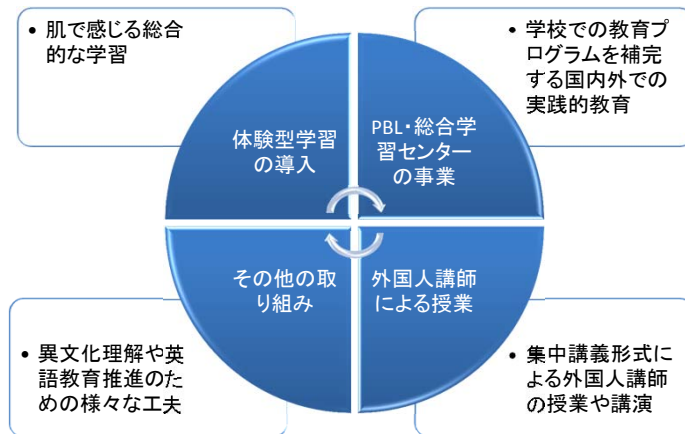
実践的コミュニケーション能力・問題解決能力の育成



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

4

教育プログラムの特徴



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

5

Ⅱ．体験型学習の導入



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

6

国際交流・英語研修行事

低学年(1年～3年)

- 1年生
外国人学生との交流
- 2年生
台湾研修旅行
- 3年生
合宿研修
(ハウステンボスでの英語研修)

高学年(4年～5年)

- 4年生
シンガポール海外研修旅行
- 5年生
短期留学生との交流
- 専攻科
研究成果の英語でのプレゼン
国際学会発表



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

7

外国人学生との交流(1年生)



クラスごとの交流

- Ngee Ann Polytechnicの学生20人と交流(9月末特別時間割)
- 日本の文化紹介, 江津湖周辺の散策
- 香梅工場や東海大学宇宙情報センターの見学



班別活動(江津湖散策)



班別活動(動植物園散策)



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

8

台湾研修旅行(2年生)

	平成26年3月24日～27日	
キャリア教育	新竹サイエンスパーク訪問	1日目
	台湾平田機工訪問	2日目
コミュニケーション	台北科技大学学生との交流	
異文化理解	饒河街観光夜市・松山慈祐宮見学	3日目
	故宮博物院見学	
	十份老街・九份見学	
	台北市内自由見学	
	竜山寺	4日目
2回目は平成26年9月8日～11日実施		

キャリア教育(新竹サイエンスパーク訪問)



- 台湾の電子産業についての説明を受ける
- 係員の方に英語で解説してもらいながら、各ブースを見学



キャリア教育(台湾平田機工訪問)



台湾平田機工

- 工場見学
- 従業員との英語でのグループディスカッション



工場見学



グループ・ディスカッション



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

11

コミュニケーション能力(台北科技大学学生との交流)



ゲームを通じての交流

- ゲーム等によるアイスブレーキング
- グループディスカッションを通じた交流



グループ・ディスカッション



市内見学に出発



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

12

異文化理解(台北市内外見学)



饒河街観光夜市



九份



十份老街



龍山寺



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

13

台湾研修旅行の成果: 学生のアンケートより

回答者 : 男21名 女8名 計29名

【質問】相手国の文化についての理解はどうでしたか(複数回答あり)

■ 日本の良さが分かった ■ 何となく理解できた ■ よく理解できた



【質問】海外の学生との交流はどうでしたか

■ ほとんどできなかった ■ どちらかというところできなかった ■ 普通 ■ まあまあできた ■ よくできた



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

14

台湾研修旅行の成果：学生のアンケートより

【質問】英語のコミュニケーションは出来ましたか

■ほとんどできなかった ■どちらかというところできなかった ■普通 ■まあまあできた ■よくできた



【質問】外国語について学ぶ必要性を感じましたか

■少し感じた ■大変感じた



【質問】英語に対するモチベーションは高まりましたか

■変わらない ■少し高まった ■大いに高まった



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

15

台湾研修旅行の成果：学生のアンケートより

【質問】機会があればまた海外へ行きたいですか

■行きたくない ■わからない ■行きたい ■是非行きたい



【質問】海外で働くことについてどう思いますか

■どちらかというところ働きたくない ■わからない ■働いてみたい ■是非働きたい



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

16

台湾研修旅行の感想

- 語学学習
 - より良い交流をするには、やはり言葉が必要だと分かった
 - 今回、このプログラムに参加して、一番の収穫は、英語に対する苦手意識がなくなり、英語の万能性をより理解することができたことだと思う。…ジェスチャーや中学校までで習うレベルの英語でコミュニケーションが取れることが分かり、もっと学生の方々と話したいと思えた。
- コミュニケーション能力
 - 実際に交流するまでは、すごく怖かったが、ジェスチャーや単語で英語が通じたときはとても嬉しかった。…この研修は私に国際交流の大切さを学ぶ重要性を教えてくれた。
- 異文化理解
 - 歴史が深い。故宮博物院や龍山寺の説明を聞いてそう思った。
 - 今回のプログラムを通じて、日本と異なった「建築物」や「食文化」に驚かされた。
 - 台湾の交通ルールや料理等に実際に触れることによって、文化を理解することができた。自由行動で、自分達で移動したり、食事したりすることが大きな原因になったと思う。



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

17

合宿研修旅行(3年生) (1日目:キャリア教育)

企業見学

パナソニックシステムネットワーク・キューピー鳥栖工場
コカコーラウエスト(株)基山工場見学など



パナソニックシステムネットワーク見学



キューピー鳥栖工場見学



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

18

合宿研修旅行(3年生) (2日目:実践的英語研修)



- 実施内容
 - グループに分かれて、外国人講師とハウステンボス内を散策
- 学生の感想
 - 楽しかった
 - もっと英語を勉強したい など



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

19

海外研修旅行(4年生)

- 協定校であるTemasek Polytechnic Singapore (TP), Singapore polytechnicの学生との交流を中心
- 海外の日系企業訪問などを実施
- 本年度の実施期間と訪問先は下記の通り。

制御情報システム工学科 9月20日～10月5日(15日間)
Hewlett-Packard Singapore・Nidecの研究所と生産工場

機械知能システム工学科 10月5日～10日(6日間)
Daikin Singapore

人間情報システム工学科 10月5日～10日(6日間)
MITSUI PHENOLS SINGAPORE

情報通信エレクトロニクス工学科 10月6日～11日(6日間)
Daikin Singapore



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

20

海外研修旅行(4年生)

キャリア教育



Daikin 訪問



Mbed (マイコン評価ボード)
の説明



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

コミュニケーション能力



英語特別授業(discussion)



TPの学生へのインタビュー

21

海外研修旅行(4年生)

コミュニケーション能力



TP学生とのワークショップ



Singapore Polytechnic交流



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

異文化理解



文化交流(空手実演)



マレーシアのアプバカルモスク

22

海外研修旅行の成果: アンケートより

【質問】 TPの学生との交流は有益でしたか(人数)

■ 全く有益でなかった ■ 有益でなかった ■ 普通 ■ 有益だった ■ 大変有益だった



【質問】 マレーシア観光はどうでしたか(人数)

■ 全く良くなかった ■ 良くなかった ■ 普通 ■ 良かった ■ 大変良かった



【質問】 企業(MITSUI PHENOLS SINGAPORE)見学は有益でしたか(人数)

■ 全く有益でなかった ■ 有益でなかった ■ 普通 ■ 有益だった ■ 大変有益だった



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

23

海外研修旅行の成果: アンケートより

【質問】 滞在中、英語でコミュニケーションできましたか(%)

■ 全くできなかった ■ できなかった方だ ■ 普通 ■ できた方だ ■ かなりできた



【質問】 英語学習の必要性を感じましたか(%)

■ 全く感じなかった ■ 感じなかった ■ 普通 ■ いつもより感じた ■ かなり感じた



【質問】 日本の文化との違いを感じましたか(%)

■ 全く感じなかった ■ あまり感じなかった ■ 普通 ■ いつもより感じた ■ かなり感じた



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

24

海外研修旅行の感想

- コミュニケーション能力
 - 異国の人とのコミュニケーションをすることによって、異文化に触れることができ、**見識が広がった**。
 - 英語に苦手意識を持っているため、シンガポールでの英語の強要は、**英語を勉強しようという意識**につながった。
- 異文化理解
 - **向こうの考え方と日本の考え方の違い**に面白さを感じました。気をつかったり使われたり、勉強になりました。
- キャリヤ教育
 - **現地で実際に働いている人の生の声**を聞くことができたので、とても参考になった。
 - **海外へと仕事で出張するかもしれない将来**を考えると、とても有益なものだった。日本とは違う海外特有の転職願望などについても聞けてよかった。



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

25

短期留学生受け入れ(数か月)



研究室での様子



研究室での様子

- シンガポール(ポリテクニク)、フィンランド、タイ、香港の大学等から短期留学生受け入れ
- 主として研究室でのプロジェクトに従事
- 学生が研究や食事会などで交流



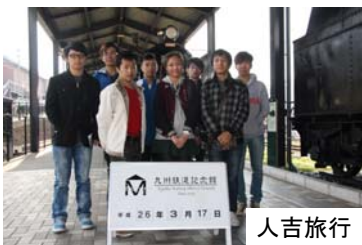
食事会



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

26

短期訪問学生との交流(1週間程度)



人吉旅行

- 香港IVE/VTCの学生受け入れ
- 4～5年生が、文化研修旅行や異文化体験(茶道や着付)などで交流



和装体験



留学成果発表会



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

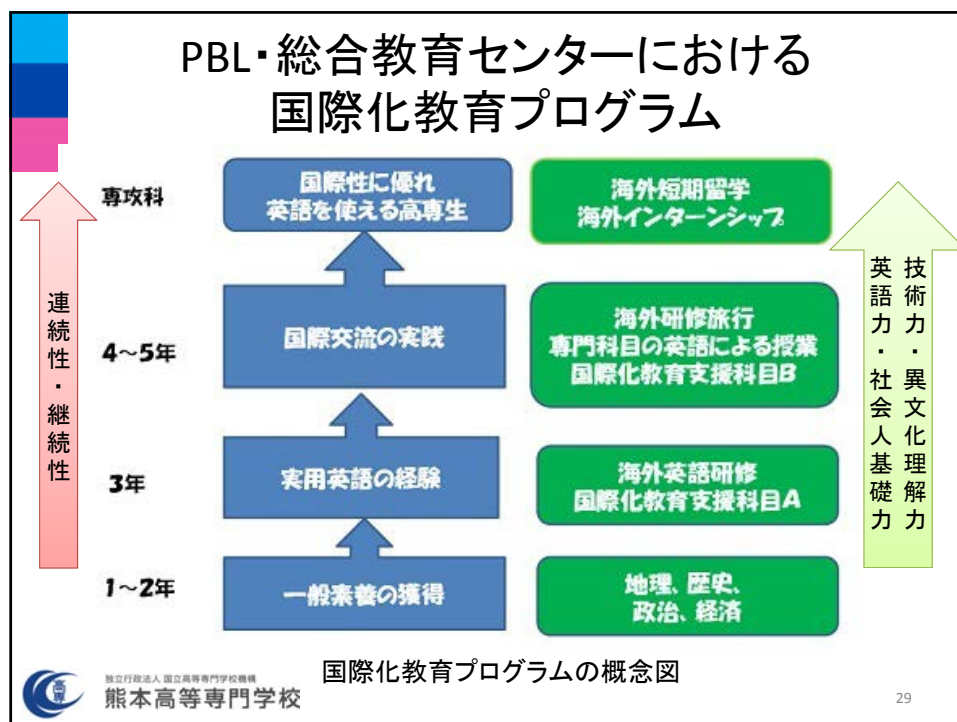
27

Ⅲ. PBL・総合学習センターの 国際化教育



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

28



PBL・総合教育センターにおける 国際化教育事業

語学教育	英語キャンプ
	語学研修旅行
キャリア教育	テクニカルチャレンジ
	プログラミングチャレンジ
	ディジタルフィルタ実装技術講習会
異文化理解	外国人学生との交流

独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

30

語学研修プログラム

英語キャンプ全国版	Singapore Politechnic
英語キャンプ九州版	Ngee Ann Politechnic
オーストラリア語学研修	Queensland University of Technology
アメリカ語学研修	Murray State University
フィリピン語学研修	PBL主催以外（於 セブ島）



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

31

英語キャンプ(全国高専対象)



課題解決学習



マンツーマンでの授業

- 8月18日から15日間
- 全国の高専生40名参加
- Singapore Polytechnicでビジネス英会話を含む英語研修
- 企業訪問を実施



マキノアジア工場訪問



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

32

英語キャンプ(九州地区高専対象)



プレゼンを中心とした授業



指導教員による指導

- 8月24日から2週間
- 九州・沖縄地区の高専生10名
- Ngee Ann Polytechnicで課題のプレゼンやNPの学生との活動を通しての英語研修
- SPEEDFAM CLEAN SYSTEM 訪を実施



NPの学生との活動



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

33

語学研修旅行

Murray State University

- アメリカ合衆国ケンタッキー州立マーレイ大学附属英語学習プログラム
- General Englishの学習
- 2013年3月～12月
- 専攻科2年生1名参加

Queensland University of Technology

- オーストラリアのクイーンズランド工科大学附属英語学習プログラム
- General English学習
- 2014年8月23日～9月27日
- 5年生6名



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

34

語学研修旅行の感想

- 英語学習
 - あやふやだった**基礎的な英語がしっかりと学習できました**。また5週間毎日英語を使っていくことで、リスニング力といいまわしが少し身に付いたと思います。
 - 一番成長できたことは、英語を話すことに対しての**恥ずかしさが無くなった**ことです。
- 異文化理解
 - 考え方や自分の**世界観がまったく変わった**と思います。海外へ行って世界が広がってやる気に満ち溢れました。
- キャリア教育
 - 卒業が近いのですが、**参加できるプログラムはできる限り参加しよう**と思います。また学校のプログラムに限らず、冬休みなどの長期休暇を利用して自分で探していいのがあれば行こうと思っています。
 - また卒業した後でも英語の勉強は続けていきます。そして**海外で働くこと**になった時に、いろんな人と交流していこうと思っています。



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

35

キャリア教育：技術交流

テクニカルチャレンジ

熊本キャンパス / Hong Kong IVE

プログラミングチャレンジ

Republic Polytechnic

デジタルフィルタ実装技術講習会

Ngee Ann Polytechnic



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

36

テクニカルチャレンジ



電子ブロックでの実験

- 8月17日～23日(7日間)
- 香港IVE の学生が来校
- 本校学生と共同で実験を実施
- 醤油工場や熊本城, 阿蘇などを案内し, 豊野少年自然の家で合宿などで, 交流を深めた.



濱田醤油工場見学



弓道見学後の集合写真



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

37

テクニカルチャレンジ



广汽本田製造工場訪問

- 8月24日～30日(7日間)
- 本校と鹿児島高専の学生12名
- 香港IVE/VTC Chai Wan校と広東市を訪問
- 現地の学生とともに技術研修・企業訪問を実施



発電量の効率化の実験



実験結果のプレゼン



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

38

プログラミングチャレンジ



二人一組で



アプリ開発を行う

- 3月8日～18日(11日間)
- シンガポールのRepublic Polytechnicで実施
- 本校からTE3・TE4の4名の学生が参加
- 現地学生と協力してAndroid端末向けアプリの開発を実施
- 企業訪問も実施



NTT Singapore 訪問



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

39

デジタルフィルタ実装技術講習会



座学と実習による講習会



現地学生との交流

- 3月22日～30日(8日間)
- 熊本高専他2校の専攻科生及び同進学予定者12名
- Ngee Ann Polytechnicにおいて、座学と演習を通して、デジタルフィルタ実装を学習
- 企業訪問も実施



Fujitec Singapore 訪問



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

40

異文化理解

香港IVE/VTC・テマセクポリテクニク との交流活動

熊本キャンパス



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

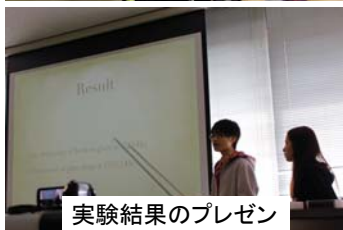
41

交流プログラム(香港の学生)



音波によるグラス破壊実験

- 3月24日～30日(7日間)
- 香港IVE/VTC(Chai wan校)の学生が来校
- 音波によるグラス破壊実験やサントリー工場・阿蘇見学などを通じて交流を実施



実験結果のプレゼン



阿蘇地域見学



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

42

交流プログラム(シンガポールの学生)



茶道の体験

- 3月25, 26日(2日間)
- シンガポールのTemasek PolytechnicのIIT学部の学生19名が本校を訪問
- 本校学生20名が茶道・弓道・書道など日本の文化を紹介したり, ロボット制御

等を通じ交流を深める



書道の体験



ラインレースロボット制御



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

43

IV. 外国人講師による 授業・講演



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

44

外国人講師による授業

クラス	科目名	講師
4 年	技術英語 I	TP
H I 4	ヒューマンメディア工学	TP
C I 4	通信工学	TP
C I 4	プログラミング特論	TP
TE 4	実験(レポート英訳指導と質疑応答)	トンガ・エチオピア
5 年	技術英語 II	TP
C I 5	オブジェクト指向プログラミング	TP
C I 5	ソフトウェア設計	TP
H I 5	タイについての講演会	タイ
A 1～2		
AE 1	デジタル信号処理工学	NP
A 1～2	技術英語	カナダ

TP: テマセクポリテクニク, NP: ニーアンポリテクニク
トンガ, エチオピアは熊本大学の博士課程留学生



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

45

技術英語 I (4年生)



ビジネスレターの書き方の講義

- 9月22日～26日(6日間)
- Temasek Polytechnicより講師を招聘
- 4年生を対象にビジネスレターの書き方やビジネスミーティングなどを実施



英語表現力の訓練



ビジネスミーティングの演習



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

46

技術英語Ⅱ（5年生）



技術的な英文の書き方の講義

- 9月22日～25日（4日間）
- Temasek Polytechnicより講師を招聘
- 5年生を対象に技術的な英文の書き方やプレゼン方法などを実施



技術的な英文の書き方の演習



プレゼン方法の演習



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

47

集中講義の例（1）



Fua Ying Huey先生の講義

- 8月7日～11日（5日間）
- ヒューマンメディア工学(HI4)
- Temasek Polytechnic より講師を招聘
- JavaScript と DOM(Document Object Model)による動的なwebページ作成の講義と演習



JavaScript の個別指導



Fua Ying Huey先生の講義



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

48

集中講義の例(2)



データベースの講義



ネットワークの実験



教員同士も交流

- 10月6日 ~ 17日(12日間)
- 通信工学(CI4), ソフトウェア設計(CI5)
- Temasek Polytechnic より2名の講師を招聘
- TCP/IPネットワーキング, データベース運用とセキュリティについての講義



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

49

集中講義の例(3)

- 10月6日 ~ 17日(12日間)
- プログラミング特論(CI4), オブジェクト指向プログラミング(CI5)
- Temasek Polytechnic より2名の講師を招聘
- Oracleによるデータベース設計やJavaプログラミングとAndroidアプリ作成実施



Sreedharan Gopalsamy先生



データベース設計の実習



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

50

英語による講演会

- 7月1日実施
- 人間情報システム工学科5年生・専攻科1, 2年生対象
- Dr. Supaporn Erjongmanee先生(タイ, カセサート大学)
- タイの歴史や文化, 生活, 大学の紹介



Supaporn Erjongmanee 先生の講演



講師の先生を囲んでの集合写真



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

51

V. その他の取り組み



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

52

国際・異文化理解教育(3年生)

- 9月22日～26日(5日間)
- 「国際・異文化理解」(1単位)を開講
 - 国際事情(インド・タイ・台湾・フランス)
 - 国際協力(JICA)
 - 世界の宗教など
- TV会議システムにて他高専へも配信



インドについての講演



JICAについての講演



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

53

英語を意識した授業・生活

- **英語教材の使用**
 - 電気回路学(CI3)・プログラミング通論(CI3)
 - 通信工学(CI4)・オブジェクト指向プログラミング(CI5)
 - デジタル信号処理工学(A1)
- **研究概要, 研究ポスター, 発表スライドを英語で作成**
 - スピーチコミュニケーションⅡ(A2)
- **英語でのプレゼン実施**
 - 特別研究の中間発表(A2)

-
- **NHKラジオの英会話を朝と昼休み放送**



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

54

英検・TOEIC受験の奨励

単位上の奨励措置

英検合格者・TOEIC高得点者の英語単位修得認定

1年生

英検3級未取得者は、全員受験

3年生

英検2級の全員受験

4年生

TOEIC IP テストの全員受験



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

55

単位上の奨励措置

熊本キャンパス

- 4年次単位認定
 - 3年生までに英検2級以上またはTOEIC 500点以上を取得
 - 4年生の英語の単位を認定
- 5年次単位認定
 - 4年生までに英語準1級以上またはTOEIC 700点以上を取得
 - 5年生の英語の単位を認定

八代キャンパス

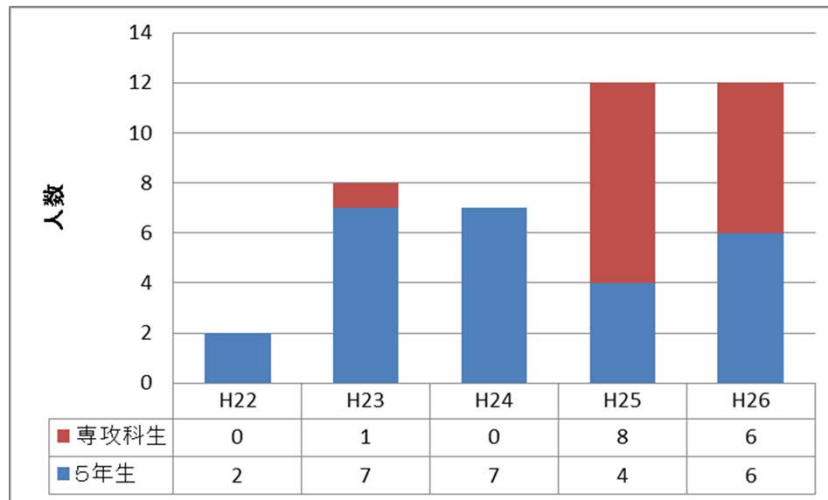
- 4年次単位認定
 - 英検2級を取得
 - 4年生の英語「IVA」「IVB」の単位を認定
- 特別セミナー科目の認定
 - 英検準2級を取得した場合、「一般特別セミナー」の1単位を認定
 - TOEIC 400点を取得した場合、「専門特別セミナー」の1単位を認定



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

56

留学した学生の推移(過去5年間)



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

57

短期留学生数(過去5年間)

国	人数	学校別人数	
シンガポール	37	テマセクポリテクニク	30
		シンガポールポリテクニク	3
		ニーアンポリテクニク	4
		ナンヤンポリテクニク	0
フィンランド	14	オウル応用科学大学	14
中国	12	北京空港天大北海学院	12
香港	2	香港IVE	2
タイ	3	カセサート大学	3
計	68	計	68



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

58

短期留学生受入状況 (平成26年度)

相手国	相手校	日数	人数
フィンランド	オウル応用科学大学	107日間	2
タイ	カセサート大学	63日間	3
シンガポール	ニーアンポリテクニク	133日間	2
シンガポール	テマセクポリテクニク	90日間	4
合計			11



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

59

海外インターンシップ

- 高専機構主催によるもの
 - ルネサスソリューションズ(シンガポール, H25.8/17～9/8, 1名)
 - 荏原製作所(イギリス, H26.8/18-9/8, 1名)
 - カネカマレーシアShd.Bhd(マレーシア, H26.9/1～9/20, 1名)
- 9高専連携事業によるもの
 - 平田機工(台湾, H26.3/5～3/18, 2名)



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

60

国際会議での学生の発表

- 高専機構主催のISTS (International Symposium on Technology for Sustainability)
 - 専攻科生を中心とした英語での発表機会の提供
 - H25 (香港, 7名発表), H26 (台湾, 8名発表)
- その他の国際会議
 - 19名 (H25年度)



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

61

まとめ

- 本校の教育理念に対応した目標の設定
 - 学年に対応した達成目標の設定
 - 取り組み内容の整理
- 実際の取り組みの紹介
 - 学科による取り組み
 - 4年次研修旅行, 台湾研修, ハウステンボス研修
 - PBL・総合教育センターを中心とした取り組み
 - 英語キャンプ, 技術交流, 留学支援
 - 9高専連携事業による取り組み
 - 短期海外派遣, 海外インターンシップ
 - 高専機構によるもの
 - 海外インターンシップ, ISTS等の国際会議



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

62

今後の課題

「グローバル人材育成」の推進・強化に向けて

戦略: 下記4つの力の伸長

課題: 予算不足



独立行政法人 国立高等専門学校機構
熊本高等専門学校

63